

NEXT CONCERTS
》 次回東京定期演奏会

第 **766** 回

サントリーホール

フレトク 奥田 佳道氏

2024年11月29日(金)19:00開演 18:30~

30日(土)14:00開演 13:20~

ポーランドの新星パヴェウ・カプワ、日本デビュー
世界的ピアニスト、ティベルギアンとの熱きロマン

指揮: **パヴェウ・カプワ**

ピアノ: **セドリック・ティベルギアン**

ブラームス:
ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 op.83
シューマン:
交響曲第2番 八長調 op.61

※当初発表の指揮者から変更になりました

©Kamil Szkopik

©Ben Ealovega

1回券料金 S ¥9,000 A ¥7,500 B ¥6,500 C ¥5,500 P ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥2,000

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー!

パヴェウ・カプワ 編

きき手 高坂 はる香

—今回はあらかじめ決まっていたプログラムを引き継ぐ形での出演となりました。

お話をいただいたとき、私にとってこれ以上ないほど良いプログラムだと喜んでお引き受けしました。自分で選んでも同じものを提案していたと思います(笑)。

指揮者として私が一番関心を寄せているのは、まずベートーヴェン。その流れにある19世紀の音楽であるシューマン、ブラームスには、強い繋がりを感じます。

ブラームスの音楽には常に厚みがあり、ロマンティックなテーマさえ重く、多くのものが詰まっています。一方でシューマンの音楽は軽やかで、彼の性格に似たナーバスなところもあります。二人の音楽には真逆の要素も多いですが、交わる点を感じる瞬間もあります。

—シューマンの交響曲第2番のどこに魅力を感じますか?

シューマンは、音楽で人の心を即座に動かすことができる人です。作品のハイライトの一つは第3楽章。とてもマラー的で、聴くたびに数十年後の音楽の先取りをしてい

ると感じます。

美しく、調和がとれていながら、神経質さやアグレッシブさもあり、そんな異なる要素を一つにする何かがあります。指揮者にとって挑戦となる難しい作品です。

—ブラームスのピアノ協奏曲第2番の印象は?

ピアノ入りの交響曲といえる長大な作品で、オーケストラが背景になるのではなく、重要な役割を担います。

ホルンのシンプルなメロディで幕を開け、誰かと向き合い「君に伝えたい話があるんだ」と語りかけるように始まります。ピアニストのパートは、ピアノのあらゆる表現が十分に発揮される方法で書かれています。最高のピアノ協奏曲の一つです。

—カプワさんはピアノから音楽を学び始めたそうですが、指揮者を目指したきっかけは?

とてもシンプルですよ。18歳のある朝目覚めて、「自分は指揮者になるんだ」と思ったのです!

子供の頃、両親が出掛けているとき、父のヘッドフォンで音楽を聴きながら指揮の真似をしていました…それが“指揮”だということも知らずに。カラヤンとウィーン・フィルによるチャイコフスキーの交響曲第5番はお気に入りの一つでした。やがてそんなことをしなくなり忘れていたのですが、自分でも認識のないまま、心の奥に指揮への思いがあったのかもしれない。

—名作について、自分の解釈はどのようにして見出すのでしょうか?

まず伝統を大切にしますが、それは現代的理解における伝統といえます。作曲家は楽譜にほとんどの情報を置いてくれるので、書かれたことの90%を実現すれば、本来それだけでほぼ完成に近い状態といえます。

しかしそこから、自分の洞察力をもって音楽を理解し、次の段階に引き上げる必要があります。音楽にはある種の自由があります。論理的で確かなゴールに向かっていながら、時には何かを加えることも必要です。

つまり、楽譜を注意深く研究し、そこにある要素を最大限に生かすため、フレージングはどうあるべきか、ダイナミクスをどう変化させるべきか検討する必要があるということです。「楽譜に書かれていることだけやればよい」という考えは、私はあまり好きではありません。

—初めての日本で楽しみなことはありますか?

日本については、今のところ映画やドラマから得た情報しかありませんが…最近ではドラマ『SHOGUN』を観ましたよ!

ポーランドと日本は、地理的、文化的に全く異なりますが、音楽で深くつながっています。日本人がショパンを愛していることは昔から知っていて、そこから日本の音楽シーンに関心を持ちました。YouTubeで日本のオーケストラを聴く中、何度も観たサントリーホールの舞台に立てるのが、まずとても嬉しいです!

私にとってこれが日本だけでなくアジア・デビューとなります。夢が叶った重要な舞台となるでしょう。

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan